

## (教育研究業績書)

| 教育研究業績書  |                   |               |                                       |  |
|--|-------------------|---------------|---------------------------------------|--|
| 研究業績等に関する事項  |                   |               |                                       |  |
| 著書、学術論文等の名称  | 単著<br>共著<br>の別    | 発行又は発表<br>の年月 | 発行所、発行<br>雑誌又は発表<br>学会等の名称            | 概要   |
| (著書)<br>『学校行事・部活動で楽しむディベート実践ガイド』                         | 共著                | 2001年<br>7月   | 学事出版                                  | 第2章 学校行事におけるディベート大会の計画・運営 校内ディベート大会を企画・運営する〔高校〕の項を執筆   |
| 『ゲストティーチャーと創る授業』   | 共著                | 2002年<br>3月   | 学事出版                                  | 第2部 ゲストティーチャーと創る授業事例集<br>4 障害者とともに行うバリアフリー調査の項を執筆  |
| (学術論文)<br>「高校国語科評論文における読解方略指導のあり方—学習者による『ふりかえり』に焦点をあてて—」 | 単著                | 2012年<br>2月   | 福井大学<br>教育実践<br>研究<br>第36号<br>pp1-12  | 評論文単元の構想と実際を粗描し、学習者が記述した「ふりかえり」を跡付けていくことで、「ふりかえり」の多様な機会を組織しその記述のさせ方を変化させることが自立した読者の育成を支えていることを明らかにした。  |
| 「読みに関する理解を育む『問い』の構造—『羅生門』を学習材とした授業実践を通して—」               | 単著                | 2013年<br>2月   | 福井大学<br>教育実践<br>研究<br>第37号<br>pp19-30 | 読みに関する「転移可能な理解」を育むためには、読むことそのものに関わる「問い」を追究させ、自己調整的に読みの実践を行う活動等を多く取り入れた上で、実際に方略を用いた読みの実践を経験させることが有効であることを明らかにした。  |
| 「探究を導く『問い』を設定する能力の育成—高校国語科現代文『こころ』の授業研究を通して(2)—」         | 共著<br>(八田幸恵・渡邊久暢) | 2013年<br>6月   | 福井大学<br>教師教育<br>研究 6<br>pp299-328     | 「問いに基づく探究のサイクル」を積み重ねつつ、〈「問い」を探究するとはどういうことか?〉〈読むとはどういうことか?〉といった「問い」を探究する。そして、このような「問い」に基いて学習経験を振り返ることによって、「探究観」や「読み観」を自覚化し、自分自身の「探究観」や「読み観」に基づく「よい問い」を設定することができるようになることを明らかにした。 |

|  |   |  |   |   |
|--|---|--|---|---|
| <p>「戦略的に読む力」を培う「見とり」のあり方</p>   | <p>単著</p>   | <p>印刷中</p>   | <p>全国大学国語教育学会編『国語の授業づくりと評価を考える』</p>   | <p>「戦略的に読む力」を培う「見とり」を行う上でのポイントを、① 戦略的な読みを実践させ、ノートに記述させる ② 戦略的に読んだことの「ふりかえり」を記述させる ③ 各自の戦略的な読みや、その「ふりかえり」を相互に交流させる④ 具体的な目標を、生徒に導き出させる の4つとし、上記のような「見とり」を行うことが「戦略的に読む」力を培うことにつながると述べた。</p>  |
| <p>(その他 雑誌寄稿)</p> <p>「国語力の充実で、実りある『総合的な学習の時間』を」</p> <p>「ディベートを使った発表のコツ」</p> <p>「クイズ型発表を質問で検討しよう」</p> <p>「『他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力』を育てる国語科学習指導」</p> <p>「『論理的に表現する力』を育てる国語科学習指導」</p> <p>「『授業のつくり方・進め方』めざせ！ 授業のプロー高等学校国語一」</p> | <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> | <p>2001年9月</p> <p>2002年8月</p> <p>2002年10月</p> <p>2008年2月</p> <p>2008年7月</p> <p>2012年7月</p> | <p>明治書院「日本語学」2001年10月号</p> <p>学事出版「月刊授業作りネットワーク」2002年9月号</p> <p>学事出版「月刊授業作りネットワーク」2002年11月号</p> <p>群馬県総合教育センター「ぐんまの教育」2008年第4号</p> <p>中等教育資料 2008年8月号</p> <p>協同出版「教職課程」2012年9月号</p> | <p>若狭高校定時制における「総合的な学習の時間」の実践記録をもとに、「総合的な学習の時間」における国語科的活動と「国語科の授業」の関係を整理した。</p> <p>プレゼンテーション等の発表場面において、ナンバリング・サインポスティング・ラベリングなどの「ディベートのし合いで用いられる発表様式」を使うことが有効であることを述べた。</p> <p>クイズ型の発表スタイルにおいて、聴衆からの質問を充実させることをねらいとした実践手法を提案した。</p> <p>「他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら、課題を解決していく能力」を育成するための高校国語科指導のあり方について、若狭高校における実践をもとに述べた。</p> <p>「論理的に表現する力」を育成するための高校国語科指導のあり方について、若狭高校における実践をもとに述べた。</p> <p>「学習者にどのような力をつけ、その力をどうみとるか」を意識した授業デザインにもとづいて構想する際のポイントを、若狭高校における具体的実践にもとづいて述べた。</p> |

|  |   |               |  |  |
|--|---|---------------|--|--|
| 「教師も育ち、生徒も育つ協働的実践 ～若狭高等学校設定科目『基礎研究』の取り組み～」       | 単著  | 2013年<br>3月   | 福井高教祖<br>教育研究会<br>議「生徒と<br>ともに」第<br>51号    | 授業をより良くしていくには、「同僚性の構築」が不可欠であること、そしてその道りは険しいものがあるが、生徒にとっても、教師にとっても新しい人生を築きあげる「充実感」があることを具体的実践にもとづいて述べた。                                     |
| 「国語科における『指導と評価の年間計画』のあり方―高等学校国語総合の授業研究を通して―」     | 共著<br>(渡邊<br>久暢<br>上北<br>克也<br>浜岸<br>くる<br>み) | 2013年<br>3月   | 福井県高等<br>学校教育研<br>究会国語部<br>会「国文学」          | 福井県立若狭高等学校の第一学年(文理探究科・普通科・商業科・情報処理科)対象に行う国語科の科目である「国語総合」で展開される授業実践とその検証を研究した成果にもとづいて、平成二五年度から完全実施される新学習指導要領下における国語総合の「指導と評価の年間計画」モデルを提案した。 |
| 『「生きて働く質の高い学力」を培うアクティブ・ラーニング』                    | 単著  | 2015年<br>11月号 | 学事出版<br>「月刊 高<br>校教育」<br>2015年11<br>月号     | アクティブ・ラーニングの重要性が叫ばれている今、「何のためにアクティブ・ラーニングを行うのか」を問いとし、その形態にとらわれず「静かなアクティブ・ラーニング」も有効であること、さらには「アクティブ・ラーニング型」授業にこそ指導に生きる評価が重要になることを述べた。       |
| 「生きて働く質の高い学力」を培う単元デザインのあり方～「アクティブ・ラーニングの時代」において～ | 単著  | 2016年<br>3月   | 福井県立若<br>狭高等学校<br>研究雑誌第<br>46号             | 「アクティブ・ラーニング祭」とも揶揄される現状の中、「生きて働く質の高い学力」を培う単元デザインのあり方について、特に目標と指導と評価を一体的に考え、実践することの重要性を説いた。   |
| 特集「ALを拓く」  |   | 2016年<br>7月   | 日本教育新<br>聞 2016年<br>7月11日<br>号             | アクティブ・ラーニングに関する特集記事において、授業実践とインタビューが取り上げられた。   |
| 特集「『授業』で社会を生きる力を育む」                              |   | 2016年<br>10月  | リクルート<br>進学総研<br>「キャリア<br>ガイダン<br>ス」vol414 | アクティブ・ラーニングの一つのあり方についての授業実践とインタビューが取り上げられた。  |

|   |                   |              |                             |  |
|---|-------------------|--------------|-----------------------------|--|
| TJC の探究学習から、若狭高校の取り組みをどう改善するか                           | 共著<br>(水谷友梨渡 邊久暢) | 2016年<br>10月 | 福井大学教職大学院<br>ニュースレター90号     | シンガポールのテマセックジュニアカレッジ(TJC)を訪問し、探究学習の実際を観察した成果を若狭高校の取り組みの改善にどう活かすかについて、特に「フィールドワークのさらなる充実」や、「発表形態の多様性の担保」などが鍵になることを指摘した。   |
| (学会発表)<br>『学びを見取る力』を育てる高校国語科学習指導～CM企画の発表における言葉の工夫を中心に～  |                   | 2005年<br>10月 | 全国大学<br>国語教育<br>学会<br>第109回 | 「学びを見取る力」を育てるための学習指導のあり方について、①見取りの回数を多くする、②見取りの対照となる素材を段階的に増やす、③見取りを他者と交流する場を設定する、という3つの条件が湯有効に機能することを、実践にもとづいて明らかにした。   |
| 「戦略的に読む力」を培う「見とり」のあり方                                   |                   | 2014年<br>5月  | 全国大学<br>国語教育<br>学会<br>第109回 | 「戦略的に読む力」を培う「見とり」を行う上でのポイントを、① 戦略的な読みを实践させ、ノートに記述させる ② 戦略的に読んだことの「ふりかえり」を記述させる ③ 各自の戦略的な読みや、その「ふりかえり」を相互に交流させる④ 具体的な目標を、生徒に導き出させる の4つとし、上記のような「見とり」を行うことが「戦略的に読む」力を培うことにつながると述べた。  |
| 「なぜ『こころ』を教材とするのか」                                       |                   | 2014年<br>11月 | 日本文学協<br>会第69回<br>大会        | ラウンドテーブル「教室の中の文学——夏目漱石の『こころ』をどう読むか」において、「なぜ『こころ』を教材とするのか」、その価値とそれを活かした授業のあり方を述べた。  |
| 「アクティブ・ラーニング時代の高等学校における『指導と評価の一体化』の可能性と課題」——目標と活動の関係を問う |                   | 2016年<br>11月 | 教育目標・<br>評価学会               | 【課題研究1】「目標・評価の視点から見たアクティブ・ラーニングの検討」に登壇した。<br>「目標の精緻化は進んでいるが、豊かな学習活動は目標から直線的に導かれるものではない。」「授業者は、教材選定・発問設定において、「ひらめき」や「直観」に基づき学習活動を構想している。授業者は、このような「ひらめき」や「直観」をどこから得ているのか。」という問題意識の下、「高次の学力を育む豊かな学習活動は、どのようにすれば構想できるのか。」「その構想方法は、どこまで伝達可能・共有可能なものになるのか。」の2つを示した。本発表については、共に登 |

|                                |          |   |   |
|--------------------------------|----------|---|---|
| (その他 口頭発表)                     |          |   | 壇した京都大学 松下佳代氏より、「教師の授業づくり（学習活動の構想）の観点」から現状のアクティブ・ラーニングについて批判が行われているという指摘を頂いた。                     |
| アントレプレナーシップを育てる国語科学習单元         | 2005年11月 | チャレンジ精神を育む教育プログラムとは                     | 生きて働く国語学力を育む国語科教育とは？そんな疑問を追求することから取り組み始めたアントレプレナー教育。生徒にとって身近なコンビニエンスストアをテーマにしたプロジェクト型学習の実践例を報告した。 |
| 『『言葉の学び』を自己評価する力を育てる高校国語科学習指導』 | 2007年2月  | 第23回福井県教育研究所研究発表会                       | 『『言葉の学び』を自己評価する力』を、高等学校国語科における学習指導の中で育てるためには、どのような条件が必要か、授業実践をもとに考察を行った。                          |
| 「自ら学び、自ら考える力を高める高校国語科学習指導」     | 2007年8月  | 福井県高等学校教育研究大会                           | 自ら学び、自ら考える力を高めるためには、探究的な学習活動を組織した上で、思考のプロセスを言語化し、交流することが有効であることを述べた。                              |
| 『『話すこと・聞くこと』領域における評価の研究』       | 2008年2月  | 国立教育政策研究所平成18・19年度学力の把握に関する研究指定校事業研究発表会 | 「話す・聞く」領域の評価においては、発表などのパフォーマンスを総括的に評価するだけではなく、ノートに残された学習の蓄積にもとづき、学習過程を形成的に評価を行うことが重要であることを述べた。    |
| 『『読解リテラシー』を育てる国語科学習指導』         | 2008年8月  | 京都大学E-forum2008                         | 読解リテラシーを育てるためには、パフォーマンス課題を用いた課題解決型グループ学習を組織し、自分の考えを繰り返し言語化させることが有効であることを明らかにした。                   |
| 「PISA型『読解力』を育てる、論理的文章の指導」      | 2008年8月  | 全国国語教育研究大会                              | 「自分の考え」を「言語化」し、他者と「交流」を行わせるために発表者が行った具体的な手だてを明らかにした上で、生徒の具体的なノート記述に基づいて、授業実践の成果と課題に対する検証を行った。     |
| 「論理的発信力UPには、まず論理的受信力を！！」       | 2008年9月  | 21世紀英語教育シン                              | 論理的に話したり書いたりする力を育むためには、まず論理的に読解したり、論理的に聞いたりする力の育  |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <p>高等学校小説单元における本質的な問い</p> <p>「課題設定能力の育成を目指す指導と評価の実際」</p>  | <p>2012年<br/>8月</p> <p>2016年<br/>8月</p>  | <p>ポジューム</p> <p>京 都 大 学<br/>E-forum20<br/>12</p> <p>京 都 大 学 大<br/>学 院 教 育 学<br/>研 究 科<br/>E-forum20<br/>16</p>   | <p>成が重要であることを、具体的に事例にもとづいて述べた。</p> <p>「読むこと自体が問題解決である」という読み観にもとづき、読みに関する本質的な問いだけでなく、学習活動に関する本質的な問いも組織化することが重要であることを述べた。</p> <p>京都大学教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM 主催の「全国スクールリーダー育成研修」のシンポジウム、「高等学校におけるカリキュラム改善——探究的な学習を中心に」において、課題設定能力の育成を目指すための指導と評価のあり方について、提案した。</p>  |
| <p><b>(講演・助言・招聘授業)</b></p> <p>学習者の「問い」を生み出す授業デザイン</p> <p>私たちは高校生を、どのような大人に育てたいのか？～深く学び、確かな力を育む 授業デザインを通して～</p> <p>叙述内容を豊かにする指導のあり方</p> <p>小説を「深く」「楽しく」読むには</p> <p>深く読む力（高次の思考力）の指導と評価 ～私たちは生徒をどのような大人に育てたいのか～</p> | <p>2014年<br/>12月</p> <p>2015年<br/>8月</p> <p>2015年<br/>11月</p> <p>2015年<br/>12月</p> <p>2016年<br/>1月</p> | <p>國學院大學<br/>文学科</p> <p>石川県教育<br/>委員会 探<br/>究スキル育<br/>成プロジェ<br/>クト</p> <p>京都府京丹<br/>后市立間人<br/>小学校</p> <p>石川県教育<br/>委員会</p> <p>立命館付属<br/>校国語科授<br/>業研究会</p> | <p>高校教員を志望する文学部生、大学院生対象に、「学習者の『問い』を生み出す授業デザイン」を組織するには、どういう視点が必要かについて述べた。</p> <p>アクティブ・ラーニングの重要性が叫ばれる中、這い回る経験主義の二の舞にならないよう、深く学び、確かな力を育む授業デザインを組織するには、どうすれば良いか、様々な探究学習の事例を踏まえて述べた。</p> <p>小学五年生に対する「書く力」を育む授業に対する助言と、書き方ではなく叙述の内容を豊かにするための指導のあり方について述べた。</p> <p>「石川県 探究スキル育成プロジェクト 合同セミナー」（於：野々市明倫高校体育館）にて、石川県の生徒さん 192名に対し、参観者約 200名の中で、小説読解の授業を行った。</p> <p>深く読む力、高次の思考力とはどのような力かを措定した上で、その指導と評価はいかにあるべきかについて述べた。</p> |

|   |              |           |  |
|---|--------------|-----------|--|
| 異文化交流はどうあるべきか～自身のものの見方考え方に気づく～                      | 2016年<br>7月  | 石川県立小松高校  | 「石川県 探究スキル育成プロジェクト」の一環として、石川県立小松高校 2 年生に授業を行い、その後の授業研究会にて講師を務めた。   |
| 小説・評論を「深く」「楽しく」読むには                                 | 2016年<br>7月  | 開星中学・高等学校 | 島根県 開星中学・高等学校の夏期セミナーにおいて、中学 3 年生と、高校 2・3 年に対し、小説・評論の授業を行い、その後の授業研究会にて講師を務めた。                               |
| 私たちは高校生を、どのような大人に育てたいのか？～生きて働く質の高い学力を育む 授業デザインを通して～ | 2016年<br>7月  | 滋賀県教育委員会  | 「滋賀県 学びの変革プロジェクト」の滋賀県高等学校研究主任悉皆研修講師として、講演を務めた。目標と指導と評価の一体化を図る際には、特に目標を生徒の現実から生み出していくことが重要であることなど、を中心に提案した。 |
| 高次の学力の育成を目指した授業デザイン                                 | 2016年<br>8月  | 産業能率大学    | 産業能率大学主催の第 10 回キャリア教育推進フォーラムにて、全国から集まった 50 名の教員を対象に、模擬授業を行った。  |
| 私たちは草津東高校の生徒たちを、どのような大人に育てたいのか？                     | 2016年<br>10月 | 滋賀県立草津東高校 | 「滋賀県 学びの変革プロジェクト」のモデル校である滋賀県立草津東高校にて、アクティブ・ラーニングを促す授業のあり方についての講演を行った。                                      |
| 育てたい力を明確にした探究的学習の評価                                 | 2016年<br>12月 | 京都市教育委員会  | 「京都市 高校教育実践講座」の講師として、若狭高校における実践を交えながら、探究的な学習における指導と評価のあり方について、80 名の参加者に対し、210 分の講義・演習を行った。                 |

#### (その他)

○八田幸恵(2015)『教室における読みのカリキュラム設計』日本標準 の第Ⅱ部に、単元「『こころ』論文を作成しよう」の実践が紹介されている。

○西岡加名恵(2016)『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価～アクティブ・ラーニングをどう充実させるか～』に、単元「自分の考えを提案し、発表しよう」の実践が紹介されている。